

全校の皆さん、おはようございます。

そして、中学生の皆さん、ようこそ伊那西高校へ。この放送は「朝の法話」と言いまして、毎週金曜日に放送されます。瞑想の姿勢で、心を落ち着けて、聞こえてくる法話の言葉に耳を傾けてください。

さて、伊那西高校には他の学校とは違うさまざまな特徴がありますが、一つは、公立ではなく私立の学校だということです。そして、「仏教」を建学の精神としているということです。建学の精神とは、その学校で行われる教育活動すべての土台になるものを表します。こういう学校でありたい、この学校でこういうことを学んでほしい、という学校の存立の願いを表すものですので、私立の学校にとって建学の精神は最も大事なもののなのです。

それでは、仏教を建学の精神にしている、とはどういうことでしょうか。伊那西高校では、仏教の授業や行事がありますが、将来お坊さんになったり仏教の研究者になったりするために勉強しているわけではありません。また、仏教の考え方を強制して押しつけているということでもありません。

ある方は、「**仏教**を**学ぶ**」のではなく「**仏教**に**自分**を学ぶ」と言いました。仏教を通して「自分」に目を向けて、「自分」を学んでいくということです。中学を出てどの高校に入るか、そして高校を出てどんな道に進むのか、人生は十人十色ですが、どのような人生を歩もうともそこに絶対にくっついてくるのは「自分」という存在です。その「自分」と出会う学びがあるのが伊那西高校なのです。

仏教と言っても、難しいお経ばかり学ぶわけではありません。自分を学ぶきっかけは、身のまわりにたくさん溢れています。アイドルグループ「CANDY TUNE」の「**倍倍 FIGHT!**」という曲に「生きているだけです」といふことだから命を誉めよう」という歌詞があります。この言葉を鏡にして自分に目を向けてみると、この言葉とは反対の生き方をしている自分がいることに気づかれます。いつも自分と周りをくらべて、勝っているか負けているか、優れているか劣っているか、というモノサシでいのちの価値を考え、「生きているだけです」といふこととかなかなか思えないのが私たちではないでしょうか。ふとそこに立ち止まると、いままで自分が持っていたそういうモノサシは本当に正しいのか、という疑問が出てきます。

仏教に自分を学ぶというのは「答え」を学ぶことではなく「問い」を持つことであり、「立ち止まる」ということでもあるのです。